

(財)女性のためのアジア平和国民基金

**第90回理事会
第71回運営審議会**

平成18年11月

関係資料

新聞切り抜き
AWF関連

1-3

新聞切り抜き
「慰安婦」・戦後問題関連

4-10

新聞切り抜き
女性・人権問題関連

11-16

【アジア女性基金、最後のシンポジウム】問題などに取り組んできた財団法人アジア女性基金の最後のシンポジウムとなる「アジア女性基金国際シンポジウムFINAL」(同基金主催、毎日新聞社後援)が19日、東京都内で開かれ、約100人が参加した。基金は来年3月末に解散する。基金理事長の村山重市元首相のあいさつの後、専務理事の和田春樹東大名義教授が12年の活動を振り返り、国・地域ごとに事業を報告した。和田氏は今後、関連資料を集めた「デジタル記念館」をインターネット上で公開することを明らかにした。

2006.11.20 毎日(朝) 30面

アジア女性基金
 最後のシンポ
 07年3月に解散する
 「女性のためのアジア
 和国民基金」(アジア女
 性基金、理事長・村山富
 市元首相)は10日、「最
 後のシンポジウム」を東
 京都内で開いた。専務理
 事の和田春樹東大名誉教
 授はフィリピン、韓国、
 台湾の元慰安婦285人
 に「償い金」や首相のお
 わびの手紙が送られたと
 説明し、「韓国と台湾では
 過半が受け取らなかつ
 た。インドネシアでは個
 人への償いは行われなかつた。中国や北朝鮮へも
 事業はできず、政府の対

処は未解決部分を残し
 た」と課題をあげた。

2006.11.20 朝日 38面

元慰安婦の償い事業に取
り組んできた「アジア女性
基金」(村山富市理事長)
が今月19日、都内で総括の
シンポジウムを開いた。
同基金は来年3月末で12
年の活動を終え、解散する。
これまでに韓国、フィリ
ピン、オランダ、台湾の元慰
安婦の女性(オランダでは
日本兵のホモ・セックスの
対象となった男性4人を含
む)計364人に「償い金」
を支給し、医療・福祉支援
を行ってきた。
「償い金」は国民の募金
(5億6000万円)から、
医療・福祉支援は政府拠出

「アジア女性基金」の12年

金(13億円)ではない、
元慰安婦一人一人に総理大
臣のおわびの手紙とともに
手渡した。金額にして一人
当たり500万円から32
0万円である。
残念ながら同基金の償い

これらの団体は「日本政
府が法的責任を認めて国家
による個人補償をすべき
だ」との立場を譲らず、償
い事業を「政府の責任をあ
いまいにする」と批判。こ
のため事業の輪郭がぼや

これについては私自身も
その一翼であるメディアの
責任が小さくない。基金設
立時は、支援団体の側の論
理を安易な支えに基金を批
判し、関心がなくなると潮

業を推進した女性の責任者
のハマー・フロッドヒュー
さんは「償い金を受け取る
かどうかを決めるのは私た
ちでなく、元慰安婦の女性」
と明快だった。
オランダでは70人の元慰

ったか、基金は国別の数字
を発表していない。受け取
ったと分かると、元慰安婦
に圧力がかかるからだ。
基金解散後も、償い事業
の活動は資料で残す(ホー
ムページは<http://www.avf.or.jp/fund/docu-ment.html>)。これは戦
後処理の一つの貴重な資料
である。白黒の書類ではな
く、やろうとして出来たと
と、出来なかったことを、
ふ分けして考える手がかり
を与えてくれる。「日本は何
もしていない」という外国
人に説明する時にも役立つ
はずだ。(専門編集委員)

地道な「償い」一定の成果

事業は、日本人にもあまり
知られなかった。大きな理
由は、同基金が発足時から
元慰安婦を支援する団体な
ど市民運動にほんろうされ
てしまったことがある。

は、国民が関心を失った。
また当の元慰安婦が何を望
んでいるかよりも、運動が
過度の倫理主義(「お金で
許しを請うのか」「お金よ
り尊厳の回復を」といった

が引くように「その後」を
フォローしなくなった。
国際政治が専門の私がこ
の事業に接したのは、天皇、
皇后両陛下のオランダ訪問
(00年)を後追い取材した
時である。オランダ側で事

安婦のうち、受け取りを拒
否したのは2人だけ。それ
なりに目的を達したのは、
フラクマティックな精神が
オランダ側にあつたから
だ。アジア地域では何人の
元慰安婦が償い金を受け取
はすだ。(専門編集委員)

西川恵の

グローバル・アイ

参院選に向け活動再開

女性議員を増やすため、超党派で女性候補者を支援してきた政治団体「WIN WIN（ウィン ウィン）」（赤松厚子代表）が半年の休会期間を経て今秋、本格的に活動を再開した。来年7月の参院選に向けて活動を活発化しようと入会を広く呼びかけている。

【望月麻紀】

超党派で女性候補支援

政治団体「WIN WIN」

WIN WINは元文相の赤松代表ら6人が発起人になり、1999年に発足した。米国の85年に設立された「エミリー・ズ・リスト」を参考に、

情報提供と交流を中心に

女性候補者のための選挙資金集めのネットワークを組織。00年の大阪府知事選を皮切りに、国政、地方の両選挙で、超党派で女性候補者を推薦し、資金面の援助を行ってきた。しかし、「数が増えれば玉石混交はまぬがれない」（赤松代表）というジレンマを抱え、寄付の激減もあり活動の見直しを迫られ、06年1月に休会した。

衆議院議員の女性議員比率は9.4%。この数は列国議会同盟の世界ランキングで下院（日本なら衆議院議員）または上院制議会の議員で18.9%、国中126位（06年9月30日現在）であり、「女性の政治参加の推進は今なお必要」との判断が

キンケド下院（日本なら衆議院議員）または上院制議会の議員で18.9%、国中126位（06年9月30日現在）であり、「女性の政治参加の推進は今なお必要」との判断が

赤松代表は「日本は米

の商賈も駆けつけ、森山議員は「若い女性に政治の担い手になってもらいたい」と訴えた。議員が「（夫婦別姓のため）民法改正や憲法典範の見直しも苦渋している。森山さん一緒に頑張らしよう」と呼びかける場面もあり、会場を沸かせた。

2006.11.6 毎日(朝)10面

2006.11.8 金日(月) 5/16

> Comfort women bill likely to get another chance in Pelosi-led House

> WASHINGTON, Nov. 12 (Yonhap)

> <http://english.yonhapnews.co.kr/Engnews/20061113/610000000020061113094032E6.html>

ペロシ主導の下院でチャンスが生まれそうな従軍慰安婦議案

ワシントン、11月12日(Yonhap)に?代表ならば、第二次世界大戦中の日本軍性奴隷制について日本の責任を追求する米議会決議はナンシー・ペロシが予想通りの下院議長に選ばれれば、来年の下院で表決される新たな可能性が出てきたと日曜日、議会筋が述べた。

米国下院の陸関係委員会は、日本が若い女性を従軍慰安婦として知られる性奴隷にしたことに対する責任を認め、受け入れるように求める決議を9月に、可決しました。これはこの問題に関して米議会によって可決された初めての決議であるが、現在の会期では下院まで行けそうにない。

「ペロシが下院議長になれば、彼女は、下院本会議に持っていく可能性が大きい」と、議会に近い関係者が連合通信に話しました。ペロシは人権主張者として知られ、特に女性と中国問題に関して遠慮なく発言する。

朝鮮が日本によって植民地化された第二次世界大戦中に何十万人もの女性(大部分は朝鮮人)が最前線の売春宿で日本兵に奉仕するために騙され、強制されました。日本政府は従軍慰安婦が存在したことは認めたが、帝国政府が売春宿の管理に直接関与していたことを否定している。

過去(2001と昨年)に提出された従軍慰安婦についての2つの下院決議は、主として日本のロビー工作により棚上げされた。

現在下院民主党院内総務であるペロシは多数党院内総務ジョン・ボナーに電話し、新決議が下院委員会で可決されたらすぐに、下院議場に提出するよう求めた。議会筋によると、ペロシは現職のデニス・ハスタート下院議長にも電話をし、本会議での表決を要請した。この決議は、4月にレーン・エヴァンズ(民主党)とクリス・スミス(共和党)の超党派の下院議員の支持により提出され、満場一致で委員会で可決されました。マイク・ホンダ下院議員(カリフォルニア選出の日系議員)がパーキンソン病のため、引退するエヴァンズに対する敬意の表示として次期議会で再提出することになっています。

ペロシは、人権を擁護してしばしば中国を遠慮なく非難している。彼女はかつて下院から同僚と一緒に北京を訪問しようとして、ビザを拒否されたことがある。これは1989年の民主主義を求める民衆反乱で亡くなった人々を追悼して天安門広場に花輪を置いて中国政府当局を怒らせたためであるのは明らかである。

韓国側が名譽回復へ

韓国入BC級戦犯83人

【ソウル 鄭山明子】日本植民地時代の強制連行被害を調査している韓国政府機関「強制動員被害真相研究委員会」は13日、第二次世界大戦後、連合国側の

軍事裁判でBC級戦犯として処罰された韓国入83人を被害者として認定し名譽回復を図ると明らかにした。さらに3人を近く認定する。対象者には、死

刑執行された12人も含まれるという。同委員会は「BC級戦犯は捕虜の監視役を強いられ、日本の戦争責任まで背負わされ、二重の苦痛を受けた」

と判断した。BC級戦犯として処罰された朝鮮半島出身者は148人で、うち23人が処刑を執行された。

2006. 11. 14 金日(朝) 3面

2006. 11. 24

読売新聞

電気通信大名菅教授

西尾 幹二氏



日本では「保守」といふのは「共」と思われがちだが、本来は違ふ。保守とは簡単に言えば「昨日までの暮らしを愛したくない」という「暮らしへの守り」のようなものだ。「保守的態度」というものもあるが、「保守主義」というものはない。「保守思想」というものがあつては逆だといけな

い。思想になつた途端、保守は「反動」になる。保守的な暮らしは大事だ。日本には平等という観念はなかったが、公平という観念があつた。小学校は公平でないといけないとか、医療体制が公平だとか、郵便局、鉄道が全国津々浦々に行き渡るといふのも日本が持っている良さだ。

公平の観念とマーケット至

日本の良さ 競争主義で崩壊

上主義は、完全に逆の位置にある。日本が地域の文化を大事にするのは欧州と似ている。米国のような極端な平等主義、観念的な競争主義がないのも欧州と似ていた。米国は保守ではない。

ところが、米国は1980年代以降、民主主義の名の下で、極端な自由主義、平等主義、競争主義という自分の尺度をどんどん日本に持ち込んできた。防衛だけでなく経済まで抑え込みにかかつており、日本の良さがどんどん壊れていく。終身雇用制、会社への忠誠心など日本が持っていたものが根こそぎつぶされていく。

日本の保守はこの十数年で崩れ、今後はもっと崩れてしまふ恐れがある。私たちの文化、暮らし、歴史を守ることと「アメリカニズム」は両立しないのだが、安倍首相は分かっているのではないのか。首相は身内で固めた「党内党」のような内閣を作った。

自分がやりやすいチーム編成で「真正保守」の政策を実行するのかもしれない。村山談話「河野談話を否認し、祖父の岸信介・元首相の戦争責任を認める発言まであった。」「憲法改正5年かかると言っているのも、「改正はやらない」と言っているのと同じだ。

村山談話などをめぐる首相の発言には「本心は別だ」との見方もあるが、大きな間違いだ。政治家が一度発言したことは元

に戻らない。政治家は自分の発言に縛られる。今やいわゆる平和主義者の方が、首相を買っているのではないのか。

にしお・かんじ 東京都出身。東大大学院修士課程修了。電気通信大学教授などを経て同大名菅教授。71歳。

保守主義

NATIONAL

RETURNEES FROM CHINA RECALL ATROCITIES

2006.11.10 JAPAN TIMES

Center a testimony to Japan's war of aggression

By MIYA TANAKA

KAWAGOE, Saitama Pref. (Kyodo) A resource center focusing on Japan's wartime aggression in China and other parts of Asia has opened in Saitama Prefecture, exhibiting documents in which some 300 Japanese veterans confess to atrocities.

Most of the confessions, to crimes such as murdering and raping civilians, were made under the auspices of the peace group Chukiren, formed in 1957 by about 1,100 repatriated Japanese who had been imprisoned in China after the end of World War II as war criminals.

"This center will be the most powerful weapon to show the truth of the war," said Fumiko Niki, 80, head of the Chukiren peace memorial museum in the city of Kawagoe and a longtime supporter of the group.

Chukiren, a Japanese abbreviation for a phrase meaning network of repatriates from China, was dissolved in 2002 because its members were aging. But its activities were taken over by a new, younger group headed by Niki, which launched the center. People in their 20s and 30s have joined her.

The center, in a 180-sq.-meter space converted from a warehouse, houses about 23,000 books along with video footage and photos related to war, peace and other issues, according to center officials. The books were mainly donated from Chukiren members and the late Masumi Yamazumi, a former president of Tokyo Metropolitan University and critic of Japan's education system.

The launch of the center comes at a time when Chukiren members are increasing-

ly concerned over Japan's current situation, including moves to revise the pacifist Constitution and the basic postwar education law with the aim of teaching patriotism in the classroom.

"Primarily, 1,000 Chukiren members were talking in public about the reality of the aggression. And we have to admit that raising the Japanese people's awareness as victims more than 60 years after the war has not been enough," said Tetsuro Takahashi, 85, former Chukiren secretary general.

Chukiren's unique activity of "testifying to the acts of aggression" can be traced back to the members' experience of being detained in China's Fushun and Tuiyuan prisons, the former from 1950.

Surprisingly treated with leniency by Chinese prison staff, including being provided with medical treatment and Japanese meals, about 1,100 former Japanese Imperial Army soldiers and officers of the puppet regime in Manchuria underwent a re-education process, confessing to their "sinful acts" and reflecting on them.

Only 45 were indicted and convicted in 1956 at military tribunals held in China. None were sentenced to death. All, including those convicted, were able to return to Japan by 1964.

More than 5,000 pages of copies of handwritten testimony by the prisoners are also presented at the newly opened center, provided through the Chinese Embassy in Tokyo, Niki said.

Tsuyoshi Ebato, a former soldier held in Fushun, said the confession process he underwent in the prison was "a miracle" that made him realize the gravity of his



TETSURO TAKAHASHI, a former soldier held in China after World War II, shows officials from the Chinese Embassy in Tokyo around the Chukiren peace memorial museum in Kawagoe, Saitama Prefecture. The shelf holds copies of handwritten testimony by 45 Japanese convicted by China as war criminals. KYODO/OTO

crime. He recalled how he had the previous year, had ordered new recruits to. They "probably thought I don't have much time left," he said. As the number of Chukiren members still alive, believed to be about 100, is rapidly decreasing, the group headed by Niki has stepped up efforts to find war veterans who will co-

Ebato recalled how he had ordered new recruits to bayonet captured Chinese, including a boy who clutched his knees and begged for life. Ebato, 93, has talked about his experiences on about 10 oc-

ture, a Chukiren member who responded to the group's call. "All people who went to the war, directly or indirectly, took part in a massacre," he said. "Japanese people talk about the sufferings of atomic bomb attacks and air raids, but we need to understand them from the context of Japan's war of aggression."

Welcoming the opening of the center, Kubotera expressed willingness to keep on relating his experiences of war. "In my local area, there are few people willing to listen to what I say, labeling me a communist. I'm also sad that many who have been to the war remain silent," he said. "But I should keep on talking. ... I think this will be our long, long fight to preserve peace."

"I thought a terrible thing is going to happen when I saw the government moving toward revising the Constitution and eyeing passing an amendment to the Fundamental Law of Education in the ongoing Diet session," Kubotera said.

"I believe it moves will be a large obstacle in facing Asian countries that suffered

greatly (in the war)."

Kubotera was born the first of 10 children in a farming family and joined the war in China in 1942. He said he is still haunted by the memory of shooting a boy, around 14 or 15, who was hiding with his mother in a hollow at the order of his squad leader in Shandong Province.

"I pulled the trigger immediately, like a machine. ... We were taught that the superior's order was the same as that of the Emperor. I didn't even hesitate," he said. "But I felt as if I was killing my little brother. My heart was thumping, and I was surprised that I ever had to do such a thing in war."

"Other soldiers' kind of sneered at me and said, 'Oh, my, Kubotera killed a child.' But they also killed others, even though it may not have been a child," he said.

As the days passed, the memories of killing the boy faded, until he was imprisoned in Fushun. Kubotera said it still took a few years until he was able to confess in prison.

"All people who went to the war, directly or indirectly, took part in a massacre," he said. "Japanese people talk about the sufferings of atomic bomb attacks and air raids, but we need to understand them from the context of Japan's war of aggression."

Welcoming the opening of the center, Kubotera expressed willingness to keep on relating his experiences of war.

"In my local area, there are few people willing to listen to what I say, labeling me a communist. I'm also sad that many who have been to the war remain silent," he said. "But I should keep on talking. ... I think this will be our long, long fight to preserve peace."

Vivisection on Filipinos admitted

Wartime medic says victims included women, children

2006.11.27

JAPANTIMES

OSAKA (Kyodo) A former medic in the Imperial Japanese Navy says he carried out vivisection on about 30 prisoners, including women and children, in the Philippines during World War II.

It is the first time anyone in the wartime military has admitted that experiments were conducted on human beings in the Philippines, said Keiichi Tsuneishi, a professor of science history at Kanagawa University.

Such experiments are known to have been conducted in northern China by the notorious germ warfare Unit 731 of the Imperial Japanese Army and at a Kyushu University hospital.

The former naval medic, Akira Makino, 84, of Hirakata, Osaka Prefecture, offered the revelation in a recent interview despite opposition from wartime friends. After keeping it to himself for nearly 61 years, he decided to come forward.

"The souls of those who died could not be soothed if the body remained buried," he said.

Makino belonged to the medical corps of the navy's No. 33 Control Unit and was assigned to Zamboanga air base on Mindanao Island in August 1944.

The experiments on live prisoners began that December, according to Makino. He was 22 at the time.

Ordered by a doctor in his unit, Makino took two Filipino men captured as U.S. spies to a hospital that had been converted from a school. The doctor told him that vivisection would be performed on them.

The prisoners were unanesthetized and tied to operating tables. Their faces were covered with an ether-soaked cloth so they fell unconscious, he said.

Makino inserted a surgical



AKIRA MAKINO, a former Imperial Japanese Navy medic, holds a list of the names of the men in his unit, at his home in Hirakata, Osaka Prefecture. KYODO PHOTO

knife into their bodies as the doctor told him, "You will have to treat patients if I die." Makino said his hands were trembling.

The doctor pointed out the liver of one of the two prisoners, but Makino barely remembered what it looked like, he recounted.

"I thought 'What a horrible thing I'm doing to innocent people even though I'm ordered to do it,'" he said.

The experiments included amputating arms and legs, suturing blood vessels and conducting abdominal dissections. They continued until February 1945 and resulted in the deaths of about 30 people, including women and children, according to Makino.

After the experiments, medical corps personnel strangled the captives with rope to make sure they were dead, Makino said, adding the bodies were buried and the deeds were kept secret.

"I would have been killed if I had disobeyed the order," Makino said. "That was the case in those days."

U.S. forces landed on Mindanao in March 1945. The Japanese soldiers, including Makino, went into hiding in the jungle.

Kanagawa University's Tsuneishi said the experiments signified the deterioration of morale among the Japanese forces.

"But I have never heard of

CONTINUED ON PAGE 2

Vivisection in Philippines recounted

CONTINUED FROM PAGE 1

(such experiments) in the Philippines, especially by the navy," he said.

Little in the way of Japanese testimony has emerged about what happened in Southeast Asia during the war because few military units survived, Tsuneishi said.

"With such new testimony as a start, I think we need to examine history by interviewing those who survived the war," he said.

war experiences while visiting elementary and junior high schools in Hirakata for the past several years, but he did not tell the students about the human dissections because of their graphic nature.

But that may now change.

"We should not let this horrible thing happen again," Makino said. "I want to tell the truth about war to as many people as possible. If I'm given the opportunity, I'll continue to testify in person."



윤정옥씨



김영미씨

YWCA 한국여성 지도자賞 선정

윤정옥(81)한국정신대문제대책협의회(정대협) 지도위원이 대한YWCA연합회가 주관하는 제4회 한국여성지도자賞 대상을 수상한다. 젊은 지도자상에는 분쟁 지역 전문 PD인 김영미(36)씨가 선정됐다. 정대협 초대 공동대표를 역

임한 윤정옥 위원은 전쟁으로 인한 여성의 성폭력 문제를 공론화, 여성 인권을 회복하는 일에 헌신해왔다. 김영미씨는 소말리아로 납치된 동원호 선원들을 현지에서 취재·보도해 잊혀져 있던 동원호 사건에 대한 관심을 불러일으킨 점을 인정받았다. 시상식은 11월2일 오후2시 한국프레스센터에서 열린다.

YWCA 韓国女性指導者賞選定

尹貞玉(81)韓国挺身隊問題対策協議会(挺対協)指導委員が、大韓YWCA連合会が主管する『第4回韓国女性指導者賞』大賞を受賞する。若い指導者賞には紛争地域専門PDの金ヨンミ氏が選定された。挺対協初代共同代表を歴任した尹貞玉委員は、戦争による女性の性暴力問題を公論化、女性の人権を回復することに献身してきた。金ヨンミ氏はソマリアに拉致されたドンウォン号の船員らを現地で取材・報道し、忘れられつつあったドンウォン号事件に対する関心と呼び起こした点が認定された。授賞式は11月2日午後2時に韓国プレスセンターで開かれる。

(朝鮮日報2006年10月31日 「人々」欄)

「イスラム法」適用拡大

インドネシア・アチエ州で、イスラム法（シャリア）に基づいた条例を広範に適用する傾向が強まっている。インド洋大津波（04年12月）以降、復興支援の外国人の滞在による欧米文化流入の「悪影響」を防ぐという意図があるとみられる。欧

インドネシア
アチエ州条例
酒、賭博の禁止のほか、公共の場で女性にシルバブ（イスラム教の女性が頭髪を隠すスカーフを表すインドネシア語）着用を義務化、むち打ち刑も認める条例で、市民団体などから反発が高まっている。「バンダアチエ（インドネシア・アチエ州）で井田純（写真も）」

女性スカーフ着用

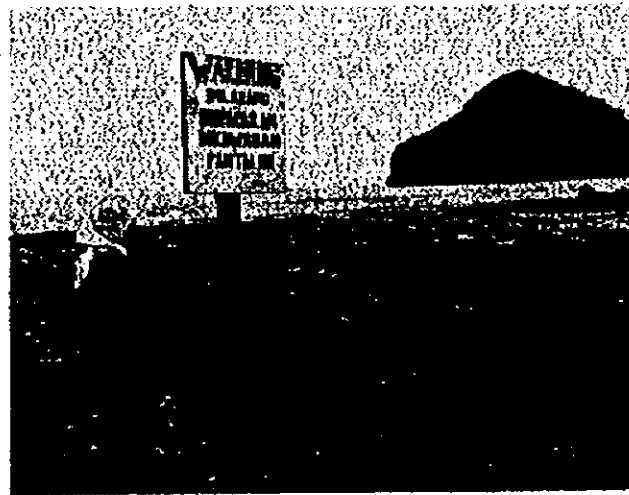
不適切な男女交際禁止

むち打ち刑も認める

「シルバブをせずに外出するだけで逮捕される恐れがあるのは大変な不自由」と話すのは、女性団体「ソリダリタス・ブルムプアン」のフスバ・デウィさん（22）。今年2月、同団体のメンバーなどが参加し、アチエ和平に関する会合がバンダアチエのホテルで開かれた。会合後、参加者がホテル内に残って話し合っていたところ、州の宗教警察が現れ、シルバブを着けていなかった数人を連行した。

デウィさんは「女性たちはまるでさしずめのよう、外から見えるトラックの荷台に載せられて周囲の男たちから汚い言葉ではやし立てられた。『売春婦のように扱われ

た」と大きな精神的ショックを受けている」と話す。国民の約9割がイスラム教徒で、世界最多のイスラム人口を抱えるインドネシアだが、国教は定められていない世俗主義国家。しかし、独立戦争が激化したアチエ州に対しては、インドネシア政府が90年代末から広範な自治を許し、シャリアが適用されてきた経緯がある。



津波復興支援 欧米の影響懸念？

入を認めてきた経緯がある。現在の条例が制定されたのは03年だが、適用が厳格になったのはインド洋大津波後。条例には、「不適切な男女交際」を禁じる条項もあり、NGOの事務所まで2人だけで仕事をしていた外国人男性と地元女性が宗教警察に連行される事件も起きている。

一方、シャリア条例執行を管轄する州シャリア・イスラム局は、「シャリアはアチエのあらゆる層に幅広く支持されており、問題は起きていない」とコメントしている。

景色のよい海辺に「この海岸付近でのデートを禁ずる」の看板。地元住民によると、シャリア条例適用拡大の中で最近立てられたものだといふ。

2006.11.18 毎日 6面

[illegible]

2006.
11. 20
每日(朝)10回

DV防止講演会 来月6日
 配偶者暴力防止講演会が12月6日
 に東京ウィメンズプラザ（渋谷区神
 宮前5の53の67）で開催される。親密
 について考える。
 DV被害者の民間支援団体「レジ
 リエンス」の中島幸子代表と西山さ
 つきさんが講師を務め、「交際相手

都庁各局 情報
 ウィメンズプラザ

からの暴力を見逃ささないために」
 をテーマに講演。カナダ国立フィル
 ム舎が製作したビデオ「恋人からの
 暴力～死にいたるまで」(20分)も
 上映する。14時からビデオ上映、講
 演は14時半から。16時半に終了。
 対象は都内在住・在勤・在学の方
 で、定員は250人（定員になり次第
 締め切り）。参加費は無料。
 申し込み方法と問い合わせは東京
 ウィメンズプラザ事業推進係（会
 ・5467・1980）まで。

2006.11.10 金(祝) 22面

【パリ＝山口眞子】フランスのボ
ートラン社会結束・男女平等担当相
は22日、会見し、今年1月1日から
平均して「3日に1人」、女性が
「家庭内暴力(DV)」の犠牲で死
亡しているとの衝撃的な統計を発表
し、女性が相愛む「弱性」で
あることを指摘した。女性の人数増
え、このほど、フランスに身柄送
りされた殺人未遂で本格的な取り調
査する暴力撤廃の国際デーに向け、
べを受けている。

女性 3日に1人 “DV”で死亡

抗議デモを呼びかけている。フランスでは最近、女性の法的結
婚年齢が15歳から18歳に引き上げら
れる女性の社会階層は「全域」に
及ぶと述べ、貧富の差や地域の区別
なくフランスで女性がDVの犠牲に
なっていることを指摘した。

22日発行の仏パリシャン紙の調査
によると、周囲の女性がDVを「受
けているか受けた」と回答したのは
30%、この問題で当局が「十分に効
果的な対策」を取っていないと批判
された。

2006.11.24 産経 6面

DV被害者の3割 警察安全確保なし

北海道の団体調査

配偶者からの暴力(ドメスティック・バイオレンス、DV)を受けて110番通報した被害者のうち約3割が、警察に安全確保をしてもらえなかったと感じていたことが、民間団体の全国調査で分かった。関係者は研修を増やすなどして深刻さへの理解を深めてほしいと訴えている。

調査は「北海道シェルターネットワーク」が8月10日に実施。47都道府県

センターや民間の一時保護施設を通じ、被害者に警察の対応を尋ねた。代理を含め、31都道府県の164人が答えた。

110番通報をした経験があるのは82人。うち35%にあたる29人は「一時保護施設や病院への移送、自宅周辺のパトロールなどはなく、事情聴取や加害者への警告、情報提供だけだった」と答えた。うち10人は「あなたにも責任がある」との趣旨の発言をされたという。一方「具体的な安全確保策を取ってくれた」は46人だった。

「シェルターネットワーク」は「110番通報するのは切迫した状況であり、安全を確保されなかったのは大問題だ。DVが犯罪と認知されていないことが背景にある」と指摘している。

【石川隆寛】

2006.11.27 毎日(朝) 31面